

日高町文化協会日高支部事業報告

第17回日高地区町民文化祭

日高地区町民文化祭の展示発表が10月28日・29日に日高総合体育館で、芸能発表が10月29日に日高町民センターで開催されました。日高小学校・日高中学校・産業学習生を含め9団体・個人から工芸・絵画・書道・写真など480点を超える展示作品が出品され、国立日高青少年自然の家職員が無料クラフト体験会を行い、80名を超える方が缶バッチづくりを楽しんでいました。芸能発表では幼児から高齢者まで5団体、ピアノ・ダンス・日本舞踊・太鼓等15演目が行われ、最後は日高高校産業学習生による勇壮な日高山岳太鼓のバチさばきに大きな拍手が送られました。



第2回日高地区芸術鑑賞事業

【夢と笑いを宅配！腹笑会バラエティーショー】

11月7日、札幌の腹話術愛好会「腹笑会」の公演が、日高高校芸術鑑賞事業を兼ねて日高町民センターで開催されました。悪天候の中、厚賀地区からの来場者もありました。腹話術だけでなく落語、南京玉すだれ、パネルシアター、皿回しなど多彩な演目に来場いただいた皆様に好評でした。公演前日の6日には日高高校出前授業を「腹笑会」メンバーで日本演劇教育連盟全国委員、日本俳優連合所属の金田一仁志さんが行い、民放の「お絵かきですよ」出演経験などから努力や表現し伝えることの大切さをお話され、グループに分かれてお絵かき伝達ゲームを行いました。





日高山脈博物館だより

HIDAKA MOUNTAINS MUSEUM NEWSLETTER

日高山脈博物館は「ジオ・ミュージアム」

道内唯一の地質と岩石の登録博物館！

通算

第83号 2023.12.

道内学芸員の中では少数！ 地質と岩石が専門の 日高山脈博物館学芸員の主な活動報告

博物館の学芸員は、常に活動しています。

学芸員は、常に博物館にいて、主に博物館の事業を開催しているようなイメージもあると思いますが、それは博物館の専門職員としての側面の一部であり、それ以外にも常にさまざまな分野や場所などで活動しています。

今年も、主に、野外巡検や博物館を含めた野外学習などの講師依頼を受けました。依頼先も、町内・町外、さらには道内・道外さまざまとなりました。

日高町内の依頼では、6月に富川小学校の授業で、博物館の展示解説や岩石の同定にかかる講師を、9月には日高小学校2年生の授業で、博物館や図書館の仕事の内容について紹介する役割、10月に日高小学校6年生の授業で、さんごの沢の地質観察の講師などを務めました。

町外からの依頼では、5月に富良野デザイン会議暮しステーションからの依頼で、ふらのみらいらぼ『石・ひと・アート第1回ワークショップ』での博物館解説と沙流川での岩石観察の講師を、6月に上富良野町東中小学校からの依頼で、博物館展示解説や沙流川の岩石についての学習講師を、7月にガールスカウト北海道第17団からの依頼で、『石博士になろう！』での岩石観察の講師を、7月・8月には、(株)西遊旅行の『日本列島の起源を探る地質紀行【中央北海道編】』にて、博物館解説や日高山脈の岩石観察の講師を、9月には、山形大学理学部地球科学コース「野外巡検：北海道見学旅行」授業の指導援助の依頼で、博物館の展示解説やさんごの沢・沙流川での地質や岩石の解説などの講師を、また苫小牧科学センターからの依頼では「日高山脈の成り立ち」をテーマにした講演と岩石同定会の講師など、多くの講師等の依頼を受けました。

他にも、最近のテーマとして、北海道の縄文遺跡から出土する石製の遺物について、岩石学的・地質学的分析を行ない、遺物の石材の科学的特徴を明らかにして、原産地の推定を行なうことも、外部の公的機関との共同研究・共同調査を行ない、調査研究を進めています（日高が原産地のひとつになっているかもしれません）。今後も、積極的に博物館活動を行なっていきたいと考えています。



講師などを務めている場面の写真です。上から順に、(株)西遊旅行のツアー（8月22日）、山形大学の野外巡検（9月26日）、富川小学校の宿泊学習（6月29日）の場面です。

日高山脈博物館のホームページ上でも掲載しています。こちらでは、写真などがカラーとなっています。ぜひご利用下さい。…⇒ ホームページ (<https://www.town.hidaka.hokkaido.jp/hmc/>) の新着情報からどうぞ。

☎ 日高山脈博物館 ☎ 01457-6-9033